土木デザイン設計競技
景観開花。2020

公開最終審査会＆トークセッション 公式パンフレット

2020.11.21(土)

Live 配信

「景観開花。2020」公式 Youtube
youtu.be/MHWanRuH7jM

景観開花。企画要旨

『景観開花。』は、土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントである。

高度経済成長期の日本では早急な社会基盤整備が求められ、特定の機能を果たすためだけの画一的な土木施設が多く生み出された。しかし一定の社会基盤が整うにつれ、その場所が持つ意味や役割に合い、風景に調和した土木デザインを求める機運が高まりつつある。

そういった土木デザインが美しい景観を実現するものと信じ、『景観開花。』は誕生した。

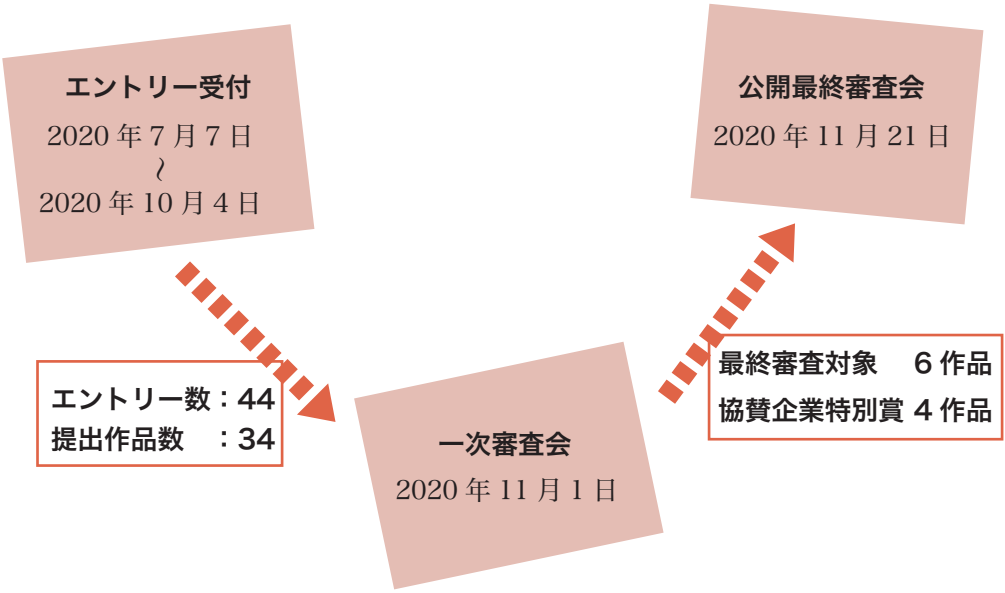
一昨年迄の 15 年に渡る景観開花の歴史を振り返ると、第 1 回から第 10 回に至るまでの 10 回は未来へつなぐ新時代の土木デザインの提案を求めてきた。また第 11 回から第 15 回までの 5 回は「まち」に潜む問題の顕在化に対し、人々の生活の接点としての「まち」とそれを支える土木構造物へのあり方についての提案を求めてきた。

1 年の開催休止を経て、本年度は「土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場」、「多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示す」という本イベントの原点に立ち返る。そして、『景観開花。』の誕生以来も技術・システムの進歩、社会情勢の変化によって私たちの暮らし、まちは大きな変化を遂げてきたことを鑑み、激変する社会情勢に合わせた今後の新たな土木デザインのあり方の提案を新たな形を含めた様式で行う土木設計コンペとしてリニューアルする。

リニューアル初回となる本年度は、「Re:ver. Space」と題し、「新しい『都市』生活様式」という観点から都市における「河川」のある景観のあり方を問う。応募者には「新しい『都市』生活様式」で「まち」に起きうる諸問題に対して河川空間のデザインによって景観を創造する事によって挑んでもらいたい。これからの土木デザインが生み出す美しい景観が「新しい『都市』生活様式」の課題解決へとつながるような提案が生まれることを期待している。

景観開花。実行委員会

設計競技「景観開花。2020」の流れ



公開最終審査会・トークセッション　プログラム

12：30　開会式
12：45　プレゼンテーション
14：45　公開審査
15：20　表彰式
15：50　トークセッション
17：20　閉会式

トークセッション

第1部　篠原 修
「土木におけるデザインとは」

第2部　岩瀬 諒子 × 崎谷 浩一郎
「空間デザインと若い力の可能性」

第3部　忽那 裕樹 × 西村 浩
「新しい都市生活様式と河川空間」

新・景観開花。

基本理念への回帰

近年の景観開花。は土木施設と『まち』との関係性を重視してきた結果、土木施設そのものが持つ魅力への関心を薄めてしまった。そこで土木施設そのものが持つ魅力に再びフォーカスし、土木施設が織り成す景観、土木施設を中心とした『まち』の広がりの可能性を探究していく。

また、土木デザインに関心のある若者にとって自身の発想力やデザイン力、発信力を発揮できる場は増えつつあるが、いまだに十分であるとは言い難い。

以上の事より景観開花。は、「土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場」、「多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示す」という基本理念に今一度立ち返る。

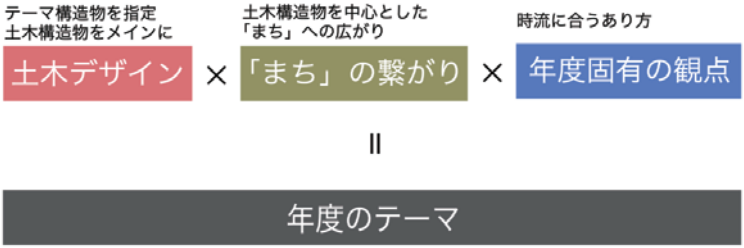
基本理念

「土木デザインの可能性」×「若い力（学生）の可能性」　＝　∞

時代の潮流に合った土木デザインの提案

社会情勢の劇的な変化の中、インフラのあり方も今後大きく変化していく。今までに無かった観点から土木デザインを捉える事によって新たな時代の土木施設のあり方、デザインを探究していく。

そこで本年度からの景観開花。では、土木デザインを激変する社会情勢に合わせたその年度固有の観点から捉え、土木デザインを中心とした『まち』への広がり、新しいあり方の提案とする。



設計テーマ

Re:ver. Space

現在、我々の都市生活は大きなターニングポイントを迎えている。昨今の社会の状況によって私たちが当たり前のように思っていた日常生活の様式が大きく変化しようとしている。密接、密集の流れにあった社会生活のあり方が根幹から揺らごうとしていると言っても過言ではない。これからの新しい生活様式の中では人々の生活は「密」を避けた「疎」を意識した生活へと変化していくだろう。都市への意識も「密」である大都市から「疎」である地方への意識がより高まっていく可能性も十分に考えられる。同様に都市の中や私たちが暮らす生活空間においても「密」から「疎」へと人々の集い方、暮らし方が変化していくことが考えられる。

また労働、コミュニケーション、イベントなどの社会活動におけるリモート化の急速な普及によってこれからの人々の生活拠点の選択肢が豊富となっていくだろう。生活拠点の選択において、社会活動の利便性のために、交通の混雑の問題を抱える場合や居住環境に劣る場合のある大都市を必ずしも選択する必要がなくなったからである。

その結果、大都市だけでなく自身のライフスタイルに合った多様な都市への関心が高まっていくことも期待される。ただし生活拠点として実際に選択されるかは、地方都市がいかに新しい『都市』生活様式における魅力、大都市にない魅力を示せるかにかかっているだろう。

また、河川空間も大きな転換を遂げようとしている。河川空間は都市における良好な景観の創出、豊かな社会生活を送るためのアクティビティ空間の創出、治水・利水機能、多様な動植物の生息環境など幅広い観点で非常に重要な役割を担ってきた。河川は都市においてその土地の象徴的な存在であることが多く、河川の整備がまちづくりの中心的な役割をなす事は少なくない。より快適な河川空間の創出の為に、様々な活動が全国各地の河川にて行われている。特に近年では「河川空間のオープン化」をはじめとする河川空間における多様な利活用が試みられている。

しかしながら、時として河川は私たちに牙を剥く事がある。近年の台風、大雨の激化によって、その被害は甚大なものとなっている。私達の都市生活をより安全なものにするために、土木インフラとしての本来機能である治水・利水機能を適切に確保しなければならない。

これからの土木デザインでは土木インフラとしての機能を十分に備えつつも、より豊かな都市生活を実現することができる河川空間のデザインが求められていると言える。

以上のことから、新しい『都市』生活様式をより豊かなものにするために土木デザインにおいても地方都市における河川空間のあり方を考え、次世代のバージョンの河川空間によって作られる新たな景観をテーマとする。

提出物

・パネルデータ
　提案の意図を表現する図面および説明文を記載したもの。
・写真データ（模型写真・CG 等）
　模型に相当する、設計の概観がわかる写真データ。
・プレゼンテーション動画
　3 分以内の映像による提出作品についてのプレゼンテーション。

評価の観点

・時代を踏まえた新たな「地方都市における河川空間」の理想像の広がり
・「地方都市における河川空間」の理想像に対する、土木構造物または土木施設を中心とした、ハードに主眼を置いた提案の具体性と現実性
・提案がテーマに即しているか
・提案がもたらす新しい『都市』生活様式での体験の豊かさと美しさ
これらを総合的に評価する。

設計条件

・河川空間中心の提案であること。
・河川空間の利活用に対する、土木構造物または土木施設を中心とした、ハードに主眼を置いた提案であること
・原則河川法等の諸法令を遵守すること。逸脱する場合はその箇所および理由、実現のための方策等を合わせて明示すること。
・テーマに沿う都市を対象として選定し、選定理由と合わせて明示すること。
・実在する敷地を対象として明示すること。
・地質調査や構造計算は求めないが、構造の現実性は確保すること。

審査委員

篠原　修｜Osamu SHINOHARA

【審査委員長】 土木設計家

東京大学名誉教授／政策研究大学院大学名誉教授・客員教授／
エンジニア・アーキテクト協会会長／ GS デザイン会議代表

日本の都市のほとんどは、戦国末から江戸時代初期にかけての城下町を起源とする。律令時代は唐、明治以降は西欧、それが都市計画のお手本だった。だが城下町だけは日本オリジナルの都市計画だと思われる。

その城下町の骨格を決めているものは、何だろうか？。

東京のそれは明治以来の鉄道？、東京の前の江戸は？。仙台は戦災復興の街路？、江戸初期の伊達は何を骨格に仙台を？。

道路、鉄道を骨格とする陸の都市から、河川、掘割を骨格とする水の都市を考えてみよう。

(c)Kanagawa Shingo

岩瀬　諒子｜Ryoko IWASE

【審査委員】 建築家

京都大学建築学専攻助教／岩瀬諒子設計事務所主宰

デザインコンペは「カタチ」を問うと同時に「ものの見方」を問うものだと考えています。

突然やってきたコロナ禍で今までの「当たり前」が変容し、戸惑うことも多いかと思いますし、私自身も戸惑う一人ですが、そもそも土木分野とは災害のたびにひっくり返された現実と対峙し、それを更新し築き続けてきた分野ともいえるでしょう。

デザイン思考という創造的な思考を通じた新しいまなざしに出会い、これからの風景を一緒に考えていく機会を楽しみにしています。

忽那　裕樹｜Hiroki KUTSUNA

【審査委員】　ランドスケープデザイナー／まちづくりプロデューサー

(株) E-DESIGN 代表取締役／大阪府立江之子島文化芸術創造センタープロデューサー／国土交通省ミズベリング・プロジェクト諮問委員／大阪市立大学客員教授

我々の生活環境は、愛着と誇りを持てる唯一無二な場として共有されることによって、豊かなものとなる。川の流れは、それを生み出す地形と共に、地域固有の魅惑的な姿を有しており、この豊かな生活の基礎となりうる。時に牙をむいて我々に襲い掛かることもある河川空間と、どのように向き合い、もたらす恵みをどう享受するのか。先人たちの長い年月の努力の積み重ねに畏敬の念を持ち、新たな時代の暮らしを支える人々の関りを実現するための提案に期待したい。

崎谷　浩一郎｜Koichiro SAKITANI

【審査委員】　シビレル・エンジニア

（株）イー・エー・ユー　代表取締役／ NPO 法人 GS デザイン会議　幹事長／発酵するカフェ麹中　代表

スタイルではなく、生命を感じたい。

デザインと聞くと、何か目新しい奇抜さを求められていると思いがちですが、土木のデザインの本質はあくまで日常の延長線上に価値を生み出すことにあります。本来その場所にあった価値、新たに生み出す価値、それらは常にそこに暮らす人々、訪れる人々の生活様式とともにあります。土着的かつ属人的、そして生命感あふれる空間の提案を期待しています。

西村　浩｜Hiroshi NISHIMURA

【審査委員】　建築家／クリエイティブディレクター

（株）ワークビジョンズ 代表取締役／（株）リノベリング 代表取締役／オン・ザ・ルーフ（株）代表取締役／呉服元町ストリートマーケット（株）取締役／マチシゴトバ COTOCO215 代表

生物学者、福岡伸一さんは、生命は「常に危機に晒されている」からこそ「自分で細胞を絶え間なく壊し続けていることで安定している」とし、その状態を動的平衡と呼んでいます。

日本は今、３つの未体験ゾーンへと突入しました。１つ目は超人口減少、２つ目はコロナ禍、３つ目は近年頻発する超災害です。史上経験したことない社会状況だからこそ、これまでの常識や慣習を敢えて疑い、まさにこれからの「動的平衡」への想像力が求められていると思います。みなさんの提案を楽しみにしています。

受賞作品紹介
入賞
協賛企業特別賞

入賞

No.8　標高 530m の Water Line

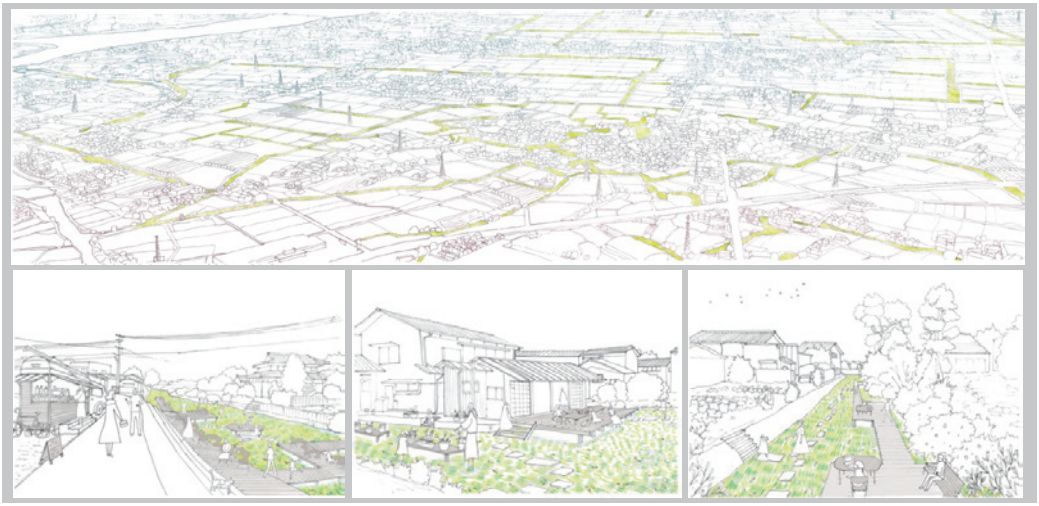
山本 陸／谷川 太一／黒川 大樹／殿畑 匠海（広島大学大学院）

ヨシモトポール・YS ポール賞

No.9　里川新八景

山川 冴子／原 望峰／泉川 時／五十嵐 萌乃／村松 美邑／中岡 暖／須栗 諒／柳瀬 千裕／上杉 謙虎／蔵 茗／吉野 良祐／吉村 佳津司（早稲田大学大学院）

入賞



No.10　水の原っぱの傍らにテーブルを
～クリークの水中緑化による街を巡るオープンスペースの提案～

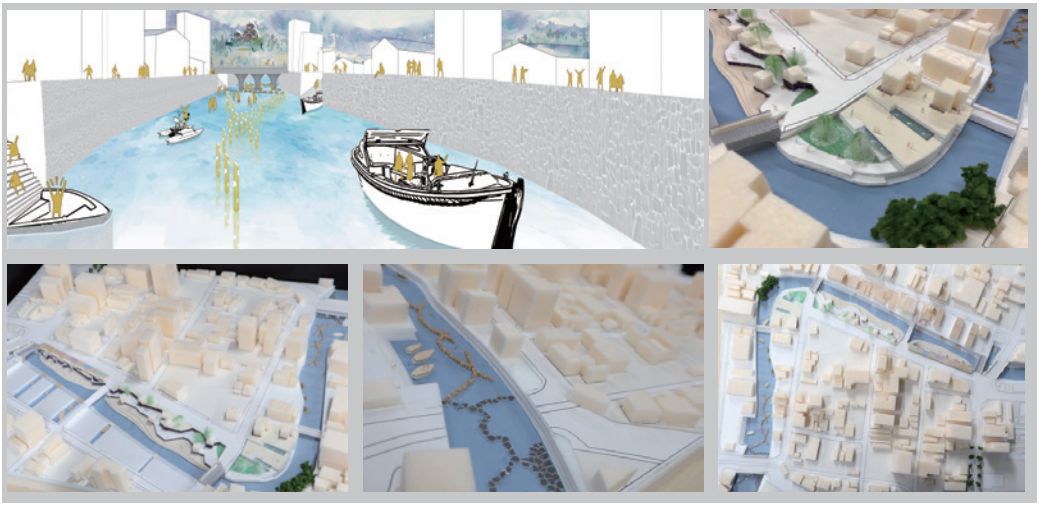
須貝 仁　（日本大学大学院）／竹内 一輝（東京藝術大学大学院）

入賞

No.11　雪代を澄ます

横畑 佑樹／根本 一希（日本大学大学院）／
中村 数基／藤田 大輝／小林 功基／有馬 成美（日本大学）

鹿島建設賞



No.15　呼吸するジョウカマチ

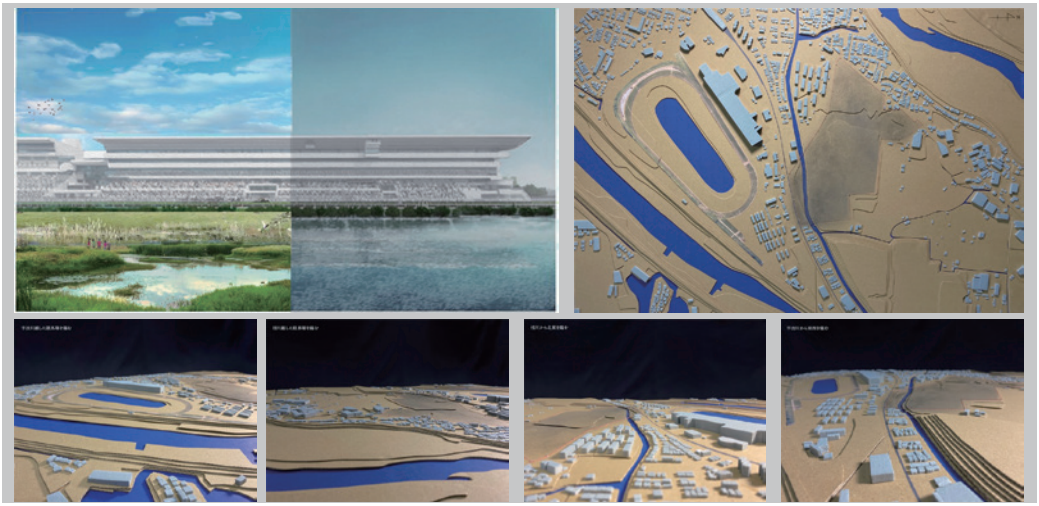
鶴薗 敦也／池田 昌弘／阿南 陸／末羽 睦美／欧 静寧（熊本大学大学院）／
宮田 比奈（熊本大学）

入賞

No.25　川に還る

上林 就／網倉 朔太郎／五三 裕太／児玉 創／ Bai Tiantian（東京大学大学院）

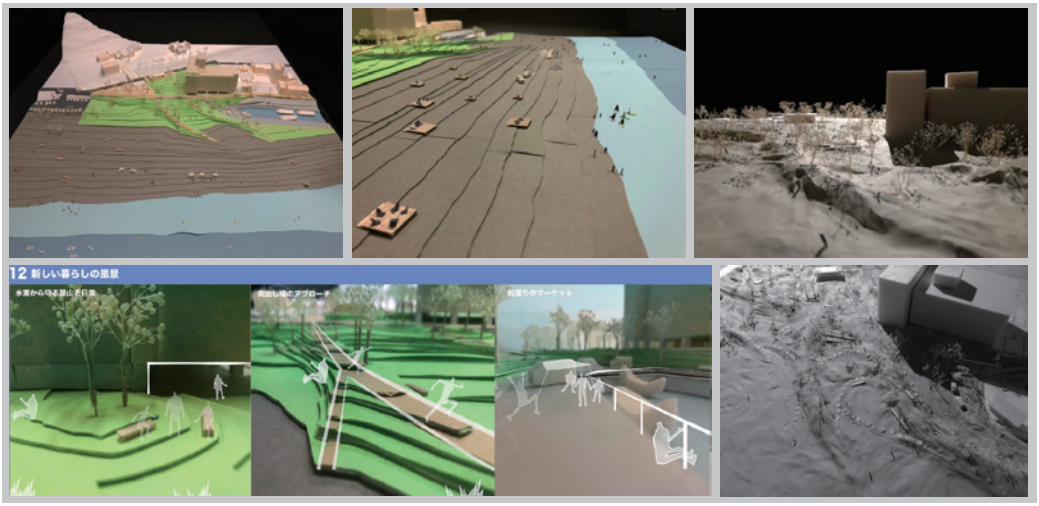
東京建設コンサルタント賞



No.32　地域に対するディープインパクトやで
流域治水が生み出す、地域都市の新たな暮らしと豊かな景観

麻生 美波／中川 愛美／杉本 莉菜（奈良女子大学）

入賞



No.38　堤みながらかわす

鍵谷 哲志／山田 幸長／前野 光風／谷口 史織（岐阜大学大学院）／
稲垣 真／佐橋 風雅／松井 利晃／藤井 汰地（岐阜大学）

入賞　ドーコン賞

No.44　石積みのニワ　– 無用の用をなす新しい川の提案 –

畠田 恵／吉武 駿（京都大学大学院）

作品一覧

No.	作品名	代表者氏名	代表者所属
01	浸かっていい、使っテイボウ	八木 優弥	愛媛大学大学院
02	Co-Post	寺嶋 啓介	北海道大学大学院
03	都市の澪標	横山 俊輔	会社員
04	SAZARECity～さざれ石のある風景～	志村 遥奈	法政大学
05	もうひとつの居場所～纏い、解き、展げる～	鈴木 優里	東京工業大学
07	川につくらせる風景	齋藤 悠宇	東京大学大学院
08	標高530m の Water Line	山本 陸	広島大学大学院
09	里川新八景	山川 冴子	早稲田大学大学院
10	水の原っぱの傍らにテーブルを ～クリークの水中緑化による街を巡るオープンスペースの提案～	須貝 仁	日本大学大学院
11	雪代を澄ます	横畑 佑樹	日本大学大学院
12	河川都市 ー地域ならではの土木構築物がもたらすひとつながりの川ー	樽木 奈生美	東京理科大学大学院
13	還る	二宮 幸大	神戸大学
15	呼吸するジョウカマチ	鶴薗 敦也	熊本大学大学院
16	重なり広がる水辺－護岸を越えて－	伊藤 源	富山大学
17	川に隣る、まちのニワ	布川 航平	大阪大学
18	川の巣―川の特質に身潜ますー	結城 拓海	早稲田大学
19	堤防歩き	大山 亮	京都大学

No.	作品名	代表者氏名	代表者所属
22	波型堤防のある河川景観	矢口 絵理奈	岡山県立大学
23	防災が暮らしを彩る	林 穂乃花	徳島大学
24	新しい地方都市における河川空間	太田 恭平	早稲田大学
25	川に還る	上林 就	東京大学大学院
26	つつみかくさず　～未来を潤す霞提～	細田 康太郎	国士館大学
27	Layer Road	菊池 裕太	東京大学
28	ゆく河の流れは絶えずして、	黄 起範	日本大学大学院
29	Walkable Bridge	脇山日菜子	日本女子大学
31	堰からはじまる芋煮ットWalk	加計 幸陽	法政大学大学院
32	地域に対するディープインパクトやで 流域治水が生み出す、地域都市の新たな暮らしと豊かな景観	麻生 美波	奈良女子大学
33	「器」のデザイン	梅元 咲紀	長崎大学
35	ぼかし、繋げる	近石さゆり	東北工業大学
37	すこあの畳堤防	篠﨑 涼介	日本大学
38	堤みながらかわす	鍵谷 哲志	岐阜大学大学院
39	Nodal Point Between You and Society	森 章太郎	京都大学大学院
42	伏水の音	大坪 永二	名古屋市立大学大学院
44	石積みのニワ　－ 無用の用をなす新しい川の提案 －	畠田 恵	京都大学大学院

①

②

③

①女川町震災復興事業（宮城県）
②陸前高田防潮堤（岩手県）
③陸前高田砂浜再生（岩手県）

100年をつくる会社
鹿島

【土木学会デザイン賞 2018】（最優秀賞）
津軽ダム

【2018 年度グッドデザイン賞　ベスト 100】
【グッドフォーカス賞（復興デザイン）】
釜石市立唐丹小学校・釜石市立唐丹中学校・釜石市唐丹児童館
photo by Daici Ano

次代への構想
Design for Next Age

【土木学会デザイン賞 2018】（優秀賞）
伊賀川　川の働きを活かした川づくり
Space for River

株式会社東京建設コンサルタント
TOKEN C. E. E. Consultants Co.,Ltd.

〒170-0004 東京都豊島区北大塚 1 丁目 15 番 6 号
TEL. 03-5980-2633　URL. www.tokencon.co.jp/

晴海通りシンボルロード

株式会社ドーコン
http://www.docon.jp

本　　社：札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1　TEL. 011-801-1500　FAX. 011-801-1600
東北支店：仙台市青葉区一番町4丁目1-25 東二番丁スクエア　TEL. 022-225-2860　FAX. 022-264-9331

パブリックファニチャーシリーズ ｜ 照明ポール・車止め・防護柵

PUBLIC FURNITURE LIGHTING

建築外構や広場などのヒューマンスケールな空間にご利用頂ける、圧迫感の無い細い支柱と、ダクタイル鋳鉄を用いた滑らかな支柱基部デザインが特長の照明ポール製品です。ポールデザインは３種類、照明器具は４種類をご用意し、ニーズに応じて組み合わせてお選び頂けます。

ポールデザイン ｜ 上部支柱に鋼管、下部支柱にはダクタイル鋳鉄を採用

照明器具 ｜ 配光特性に特徴のある４種類の器具を採用

ヨシモトポール株式会社

本社
〒100-0006　東京都千代田区有楽町 1-10-1 有楽町ビル 7F
TEL：03-3214-1552　FAX：03-3212-1751　URL：www.ypole.co.jp

スタンダードなデザインで美しい街づくりを目指す
ヨシモトポールのパブリックファニチャーシリーズ
⬅ 是非パブリックファニチャー特設サイトをご覧ください。

YSポール株式会社

本社
〒100-0006　東京都千代田区有楽町 1-10-1 有楽町ビル 7F
TEL：03-3214-1510　FAX：03-3212-1751　URL：www.yspole.co.jp

東北支店
〒980-0021 仙台市青葉区中央 2-2-6（三井住友銀行仙台ビル 7F）
TEL：022-721-5035　FAX：022-263-1190

景観開花。2020
2020 年 11 月 21 日（土） 公開最終審査会＆トークセッション
会場：Zoom ウェビナー　配信会場：youtu.be/MHWanRuH7jM

主催　東北大学工学部　建築・社会環境工学科　景観研究室
景観開花。実行委員会

景観開花。実行委員会

実行委員長
平野 勝也（東北大学准教授）
事務局長
石郷岡 昇汰（東北大学大学院）
事務局
副局長：中田 直輝　（東北大学大学院）
総務　：戸谷 百萌　（東北大学大学院）
協賛　：石郷岡 昇汰（東北大学大学院）
渉外　：池田 智　　（東北大学大学院）
広報　：大西 明日香（東北大学）
会計　：天谷 友哉　（東北大学）
サポート
最終審査会司会：渡邊 大樹
（東北大学大学院）

特別協賛

鹿島建設株式会社
株式会社東京建設コンサルタント
株式会社ドーコン
ヨシモトポール株式会社・YS ポール株式会社

一般協賛

株式会社エイト日本技術開発
株式會社オオバ
株式会社オリエンタルコンサルタンツ
大日本コンサルタント株式会社
パシフィックコンサルタンツ株式会社
株式会社福山コンサルタント
株式会社復建技術コンサルタント

景観開花。2020
公式 SNS

@keikankaika_2020
@keikankaika
@keikankaika

http://keikankaika.jp